

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520050

研究課題名（和文） 写本に基づくバルトリハリの文章意味論の再検討

研究課題名（英文） Reexamination of Bhartrhari's Theory on Sentence and its Meaning, based upon the Manuscripts

研究代表者

赤松 明彦（AKAMATSU AKIHIKO）

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：80159326

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：バルトリハリ、言語哲学、意味論、文意、サンスクリット、インド古典文学

1. 研究計画の概要

(1) 本研究の主たる目的は、研究代表者がこれまで行ってきたインド古典期の言語哲学研究成果を踏まえ、「意味論」、とりわけ「文」にかかわる「意味論」（文意論）の特質を、インド6世紀の思想家バルトリハリの主著『文章単語論』（ヴァーキヤ・パディーヤ）の第2巻自注のテキスト分析を通じて明らかにすることである。

(2) テキスト分析には、信頼しうる校訂テキストが必要であるが、現行の刊本は、校訂が不完全であるので、新たに撮った当該テキスト写本の写真に基づき校訂テキストを作成し、それに基づきテキスト分析を行なう。

(3) テキスト分析に際しては、作成した校訂テキストをもとにして、XML 文書化ツールを用いて諸テキスト情報をタグとして埋め込んだ「電子版研究ノート」を作成する。

2. 研究の進捗状況

(1) 『文章単語論』第2巻の写本写真に基づいた Diplomatic Text の作成は完了した。

(2) 『文章単語論』第2巻の現行の諸刊本との校合を行ない第2巻の校訂テキストを作成する作業は、現在約 60 パーセント程度を完成したところである。

(3) 校訂テキスト作成にあたって、第2巻のブンヤラージャ注、第3巻のヘーラーラージャ注を参照したが、そのデータ化を第2年度に行なったので、(2)の作業が遅れた。

(4) XML ツールを用いての「電子版研究ノート」の作成については、最終的な成果公表の方法とも関係するので、現在なお様々な試みをしているところである。諸テキスト情報のタグ付けによる XML 文書化は、校訂テキストの作成とほぼ同じ進捗状況であるが、

その公表方法については模索中である。今年度が最終年であるので、批判校訂テキストと翻訳、注記を同一ページで示す形式での成果の公表をめざす。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由) 2008年までは順調に作業を進めたが、2009年秋の国際サンスクリット学会開催にあたってその事務局長であったため、それに忙殺され、自分の研究発表の準備はできたものの、実際の発表ができなかった。ただし、文意論の研究自体は順調に進めており、校訂テキストの作成作業を今年度中に進めれば、当初の目的は達成できる。

4. 今後の研究の推進方策

『文章単語論』第2巻（含自注）の校訂テキストと翻訳研究、およびバルトリハリの文意論を言語哲学の歴史的展開の中に位置づける論考を本として刊行するよう努力する。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計1件)

① Akihiko Akamatsu, Grammarian's philosophy in the history of Indian philosophy, ABSTRACTS of the 14th World Sanskrit Conference, 2009, p. 293. [査読有]

[学会発表] (計2件)

① Akihiko Akamatsu, 'Sky -flower' in Perspectivism, International Conference, World view and theory in Indian philosophy, 2009年4月29日、スペイン・バルセロナ。

② 赤松明彦、「パースペクティヴィズムにおける空華」、インド思想史学会、2009年12月26日、日本・京都。